

番外編① 古代エジプトの教育

*エジプト、と聞くとやはりピラミッドやスフィンクス、王家の谷、ファラオなど古代エジプトの世界観を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか？古代エジプト史は紀元前 3000 年以上前にまで遡るとされますが、ピラミッドが盛んに作られたといわれる古王国時代からアレクサンダー大王やクレオパトラが活躍した古代ギリシア・ローマの時代まで、世界中の考古学ファンを魅了してやまない魅力がエジプトにはあります。今回展示されている教科書でもみられるように、古代エジプトのトピックはエジプトの教科書にもたびたび登場します。

*古代エジプトの彫像の一つとして、書記像をご覧になったことがあるでしょうか？あぐらをかき、膝の上にパピルスの巻物を置いて書き物や読み物をする像のことです(図 1)。書記は古代エジプト社会では高級官僚に相当する職で、読み書きができた支配者階級の人々に対して使用された呼称です。ある本によれば、「読み書き能力は国の高官への道を自力で切り開く術」であり、人々の憧れの職業だったそうです。書記は神殿に付属した「生命の家」と呼ばれる研究機関で学んだといわれます。「生命の家」には大量のパピルスがあり、神学、天文学、医学、美術、数学などを学ぶ、現在の大学のような場所だったとのことです(大城, 2025)。

*現在、エジプトの首都カイロ郊外に「ヘリオポリス」と呼ばれる区域があります。ヘリオポリスは古代エジプトの時代には太陽神ラー崇拝の首座として栄え、台頭した神官職と神学は王権とも結びついて太陽神ラーに対する国家的祭儀が王朝全体を支配するほどだったそうです。伝説では、古代ギリシアのプラトンもヘリオポリスに学んだという伝承が残っています(ブリタニカ国際大百科事典)。このヘリオポリスですが、ギリシア語で「太陽の都」を意味し、一帯は現在アラビア語で「アインシャムス(=太陽の目)」とも呼ばれます。ここには、現在、国立大学のアインシャムス大学が置かれています。大学の公式サイトによれば、アインシャムス大学の名称は古代の学術中心地だった当地の地名にちなんでつけられたそうです(図 2)。現地では、アインシャムス大学は特に外国語教育の分野に強いことで知られています。古代エジプトの時代から数千年の時を経て、ヘリオポリスはかつて神殿の近くの「生命の家」で書記たちを育てたように、現在のエジプトでも言語のプロフェッショナルを育成する学問と教育の中心地となっています。

- 大城道則(2025)『古代人の教訓』ポプラ社。

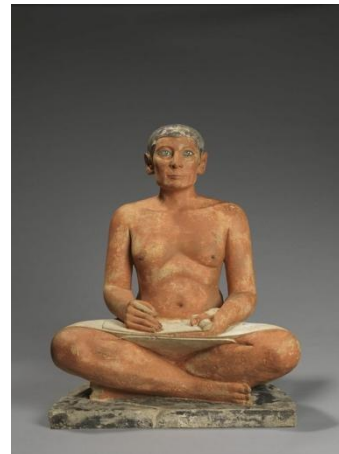


図 1. 書記像(ルーブル美術館ホームページより)



図 2. アインシャムス大学のロゴ。古代エジプトにちなんでオベリスクとホルス神を象徴する鷹が描かれる。(大学ホームページより)